

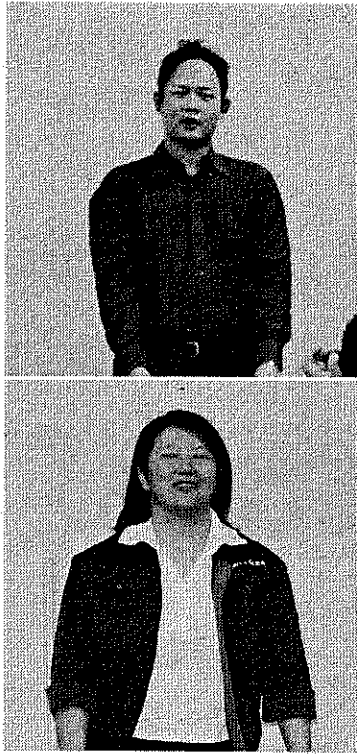
京都でペレット勉強会

京都の木質資源を考える 商會・中川典子氏が「京都材資源の循環を阻害するのではとの懸念を示した。材の有効活用を目指してのペレット勉強会」を、おの立場で携わってきた中での問題や課題を述べた。月26日に京都府庁内のNP Oパートナーシップセンターで開催した。

第1部は、薪く炭くKY OTO（しんくたんくきょ）の成田真澄氏が「森林バイオマスの普及への取り組み」を、(株)岡田材木店・岡田和也氏が「京都の製材所の現状」を、(株)千本銘木材不足が顕著で、これが木

材資源の循環を阻害するのではとの懸念を示した。そのような中で、木質ペレットはクリムエネルギーとして時代ニーズに対応し、木材資源のより有効活用として新たな製材所の生用として取り組んでいる。また同氏は「木を通して人の大きな期待を寄せている。また第2部では「木質ペレットの課題と期待」のテーマで京都学園大学バイオマス環境学部の中川重年教授が専門的立場から、ヨーロッパでの事例などを紹介しながら、全国で20カ所近くにまで増えているクリーンエネルギーとしての木質ペレットの優位性や課題などについて解説した。

また、銘木業者の立場から中川氏は一般消費者に分かりやすい木材の紹介として京都新聞に連載してきた「木質ペレット」での反応を通じての木材への関心の高さとともに、反面、木材への知識不足の現状を述べ、環境に優しい自然素材であり、循環型資源としての木材の優位性のアピールの必要性を述べている。



京都のペレット勉強会で④岡田氏⑤中川氏

また、銘木業者の立場から中川氏は一般消費者に分かりやすい木材の紹介として京都新聞に連載してきた「木質ペレット」での反応を通じての木材への関心の高さとともに、反面、木材への知識不足の現状を述べ、環境に優しい自然素材であり、循環型資源としての木材の優位性のアピールの必要性を述べている。

用するなど、行政でも積極的に環境保全に取り組んでいるが、温暖化防止のうえでも森林の健全性は不可欠であることから今後行政一体となって、循環型資源でありクリーンエネルギーとしての木質ペレットの用途開発が望まれる。